

市佐木

通

拜啓、研究頭腦を用意致しました。座談後の

の意見を忘れぬ中にと思い、一筆書かせて頂く次第です。

農家へ口述纂稿という枠内で、深く掘り下げて、取り上げるという共同課題の企図には、真意を表します。併し、問題が複視的視角に於いてなされる方針であるだけに、之の具体的な実現に当つては、前以つて可成り共通した調査方法上の課題を用意しておかねば、切西の討論もその実を少ながらしめるものと感念致します。

家族と云う点で両題が分析されるわけですから、農家の対象の拡大については、十分な吟味が必要あります。群衆の性格から見れば、この場合では一応、農家の地域的属性性は問題外で、広く対象として取り上げられる様ですが、矢張り、一定の相なり部落なりに限定し、大内氏の云はれる様に、あらゆる型の農家を一定戸数に対する一定比率で撰択す

るところ、サンスル数の標準が課題とされる必要がありましょう。対象数が多數ならば、早く選り下げることは困難でしようし、少ないすこても困りますから……。

次に、「こうして撰択された場合、各郷についても、時代的にも出来るだけ古くまで遡ることが必要だと思います。例えばその為には、

土申戸籍に記されている農家で現存している農家、という様に、共通の手書きとなるものに準據して、過去から現在に至る期間を取り上げてみるというのも一つの方策ではないかと愚考いたします。そして、農業經營、「穀

林統計の約束」、兼業、その地についてもセンサスとか販賣は、その他の共通したものに準據するという事も、もつと配慮されてもよいのではないかと思ひます。

要するに、年一回の討論の形式のみでから、十分に各会員の議論の実があげられる様に、問題点を洗つて、討論の重点が分散せぬ様な配慮を要します。その為には、問題を争柄でしようが、調査標をはじめ、調査方法上について、少くとも共通的に取上げかるべき農地の共通規準の設定と具体的に課題委員会において作成して頂ければと思います。

意見の開拓どころか、邏輯の流出に留してしまいましたが、中央とは異つて、共同討議

では、年一回の討議の実を心より期待しているのですから、その辺の所をくみとつて頂ければと思い、共同課題についての意見と、教示とを混在した形で提出させていたゞいた次才です。

(玄島大学)